

病院におけるヒーリングアート、ホスピタルアートの効果

新潟医療福祉大学看護学科4年・中村萌実
新潟医療福祉大学看護学科・松井由美子

【背景】

リラックスした状態を生み出す環境作りは、病気の治癒回復力の向上のために重要である。そこで、その不安やストレスを癒し和らげるための実践的活動として、ヒーリングアートやホスピタルアートといった「アート」を介した環境改善が注目されてきている。とくに幼い子どもにとって病院は苦痛や不快なことの多い恐怖に満ちた環境となる。そのため、アートによって子どもが主体性を発揮できるような環境を整えることが子どもにとって良い効果を与えることが期待されており本研究では文献を用いて子どもにとって有効なヒーリングアートとホスピタルアートについて考察した。

【方法】

文献研究：医学中央雑誌やCiNii、PubMedによる文献検索用語の定義：

ヒーリングアート：「爽やかな気分になって、心が落ち着く効果を目的とした芸術」、患者の心が癒されることで、「自己治癒力を高め、『治りたい』、『元気になる』という気持ちを引き出す効果のある芸術。

ホスピタルアート：小児医療施設を利用する人のために特別に施されたもので壁紙や玩具等も含む。

【結果】

「医学中央雑誌 Web 版」で「ヒーリングアート」のキーワードで検索を行った結果、対象文献は9件を得た。また、CiNii Articles で検索を行った結果は15件、PubMedで検索した結果は865件であった。「ホスピタルアート」のキーワードで検索を行った結果、医中誌は7件、CiNii は8件の対象文献を得た。PubMedで検索した結果は7423件であった。検索された文献の中で本研究の目的に沿った「アート活動がもたらす影響」について研究された文献が4件検索された。以下にその4件の文献(表1)とアートに対する反応(表2)を示す。

表1 検索された文献の概要

Table with 2 columns: 文献 (Literature) and 概要 (Summary). It lists four studies (A, B, C, D) related to art in medical settings.

表2 アートに対する反応

Table with 4 columns: 対象 (Subject), 研究デザイン(研究方法) (Research Design), アートの子どもへの影響 (Impact on Children), アートの対する家族・スタッフの反応 (Reaction of Family/Staff). It details reactions to art across different studies.

【考察】

文献Aでは、処置室にヒーリングアートを導入したことにより、下線(a), (b)のような、処置や処置室に対する恐怖心や不安が軽減し、啼泣の減少や処置への協力的な姿勢がみられたのではないかと考える。子どもにとって処置室は、見慣れない機器に囲まれ家族と隔離された空間で不安や恐怖心が大きい場である。そのため比較的軽度な侵襲の処置でも、子どもに対する心身への侵襲は想像よりも大きくなっていることがあるといわれる¹⁾。アートの導入で子どもは主体的に処置に臨み下線(c)のような痛みの減少につながったと考える。

徳富らは子どものストレスが少しでも軽減できれば家族の精神的な安定も得られ良好な相互作用が期待できると述べている²⁾。アートにより子どものストレスが軽減されれば、付き添う家族のストレスや負担の軽減にもつながると考えた。

文献Cではヒーリングアートは看護師の「癒し」にもなっている。また佐藤は「看護師の意識が環境やヒーリングアートに向くことでヒーリングが『子どもを癒すもの』につながる」と述べている³⁾。アートにより子どものストレス軽減や主体性を高めるには、看護師が意識的にアートを活用していくことも必要だと考えられた。

【結論】

アートを導入することで、病棟や処置室を子どもが親しみを持てる空間にすることが可能で、ケアなどにおいて良い効果をもたらし、そのことが付き添う家族のストレスや負担の軽減にもつながる。またアートは看護師の「癒し」ともなり看護師がアートを意識的に活用することが重要である。

【文献】

- 1) 二宮啓子、今野美紀編. 子どもと家族に寄り添う援助, 小児看護学概論, 南江堂, 2011.
2) 徳富道子ら. 小児病棟入院中の児の家族が望む看護援助—入院中の困りごとのアンケート調査から考察する—, 小児看護, 83-85, 2003.
3) 佐藤奈々子ら:小児科病棟の環境が入院中の子どもの生活に与える影響, 小児看護学会論文集 37, 158-160, 2007.